

# 新病院開院以後（R10～R19）の病院事業収支見通し

令和 7 年 5 月  
岩見沢市立総合病院事務部

# 1. 収益の積算方法

医 業 収 益	<b>入院収益</b>	入院患者に医療サービスを提供することにより得られる収益
	【積算方法】	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院延患者数の見通しは【別表1】のとおり。</li> <li>・病棟別の患者数に病棟別の単価を乗じて積算。</li> <li>・病棟別の単価は、急性期病院の事例をもとに下記のとおり設定。 一般病棟：71,000円、HCU：370,000円、SCU：326,000円、緩和ケア病棟：48,000円、回復期リハビリテーション病棟：45,000円、精神病棟：24,000円</li> <li>・院外処方への移行に伴い、薬剤師の病棟配置による加算等で年約100,000千円の増収を見込む。</li> </ul>	
	<b>外来収益</b>	外来患者に医療サービスを提供することにより得られる収益
医 業 外 収 益	【積算方法】	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来延患者数の見通しは【別表2】のとおり。</li> <li>・一般、精神、歯科口腔外科別の患者数に単価を乗じて積算。</li> <li>・各単価は、直近の実績をもとに下記のとおり設定。 一般外来：30,000円、精神外来：13,000円、歯科口腔外科外来：5,400円</li> <li>・院外処方への移行に伴う投薬料等の減収を見込む。</li> </ul>	
	<b>その他医業収益</b>	差額ベッド代や文書料など、診療活動以外で得られる収益
医 業 外 収 益	【積算方法】	
	・入院収益と外来収益の合計額の約1.5%で積算。	
	<b>他会計補助金・負担金</b>	国の繰出基準に基づく一般会計からの補助金・負担金
	【積算方法】	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の基準に基づき一般会計が負担すべきとされている経費（建設改良費、精神医療、感染症医療、周産期医療、救急医療など）の項目ごとの積み上げにより年度ごとに積算。</li> </ul>	
<b>国道補助金</b>	国や北海道からの補助金	
医 業 外 収 益	【積算方法】	
	・R6実績を踏まえ年12,000千円の定額で設定。	
	<b>長期前受金戻入</b>	実際の現金収入を伴わない帳簿上の収益で、資産取得時に財源とした補助金や企業債に係る繰入金（元金償還分）を減価償却費の一定割合で収益化した額のこと
	【積算方法】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・過年度に受領した補助金は、取得した資産の耐用年数に応じて年度ごとに収益化。</li> <li>・新病院分の補助金や一般会計繰入金（元金償還分）は、見込まれる総額を建物や機器別の耐用年数に応じて年度ごとに収益化。</li> </ul>		
<b>その他医業外収益</b>	院内保育園保育料、施設貸付料などの収益	
高等看護学院収益	【積算方法】	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3～R5実績を基に、年約133,000千円で設定。</li> </ul>	
<b>健康センター収益</b>	健康センターにおける健診料などの収益	
【積算方法】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R10は、受診者が労災病院からの移行により現状の1.5倍となることを見込み、健診料もR7予算額の1.5倍の295,533千円に設定。</li> <li>・R11以降は、35歳以上の将来人口推計の減少率をR10に乗じて積算。</li> </ul>		

## 2. 費用の積算方法

医 業 費 用	<b>給与費</b>	<b>職員の給与や手当などに係る費用</b>
	【積算方法】	
	<p>&lt;給料・手当&gt;・・・正職員分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R10は、新病院の職種別職員数に職種別平均単価を乗じて積算。</li> <li>・職種別平均単価は、R7予算をもとに下記のとおり設定。 医師：17,900千円、看護師：6,100千円、薬剤師・医療技術職：6,100千円、事務職等5,600千円</li> <li>・R11以降は、R3～R5実績を基に、医業収益の約36%で積算。</li> </ul>	
	<p>&lt;手当&gt;・・・非正規職員分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R10は、新病院の職種別職員数に職種別平均単価を乗じて積算。</li> <li>・職種別平均単価は、R7予算をもとに下記のとおり設定。 医師：1,900千円、看護師：900千円、薬剤師・医療技術職：800千円、事務職等900千円</li> <li>・R11以降は、R3～R5実績を基に、医業収益の約0.7%で積算。</li> </ul>	
	<p>&lt;報酬&gt;・・・非正規職員分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R10は、新病院の職種別職員数に職種別平均単価を乗じて積算。</li> <li>・職種別平均単価は、R7予算をもとに下記のとおり設定。 医師：10,500千円、看護師：2,600千円、薬剤師・医療技術職：2,200千円、事務職等2,300千円</li> <li>・R11以降は、R3～R5実績を基に、医業収益の約2.8%で積算。</li> </ul>	
	<p>&lt;法定福利費&gt;・・・正職員・非正規職員分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3～R5実績を基に、給与・手当+手当の約21%で積算。</li> </ul>	
	<p>&lt;退職給付費&gt;・・・正職員分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3～R5実績を基に、給与・手当の約8.5%で積算</li> </ul>	
	<p>&lt;賞与引当金繰入額&gt;・・・正職員分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3～R5実績を基に、給与・手当の約9.4%で積算</li> </ul>	
	<b>材料費</b>	<b>医療の提供に必要な医薬品や診療材料などを購入するための費用</b>
	【積算方法】	
<p>&lt;薬品費&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R10は、新病院が開院する秋までの半年間程度は現病院の運営であり、外来分医薬品の院外処方の影響が限定的であることから、対医業収益のR3～R5実績（約26%）とR11以降の約11%の平均値として約18%で積算。</li> <li>・R11以降は、他事例を参考に医業収益の約11%で積算。</li> </ul>		
<p>&lt;診療材料費・給食材料費・医療消耗備品費&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他事例を参考に医業収益の約10%で積算。</li> </ul>		
<b>経費</b>	<b>光熱水費や委託料など医療活動を維持するための費用</b>	
【積算方法】		
<p>&lt;厚生福利費&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3～R5実績を基に、給与・手当の約0.2%で積算。</li> </ul>		
<p>&lt;報償費&gt;・・・出張医等への報償</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3～R5実績を基に、新病院では医師の増により出張医の減を見込み260,000千円の定額で積算。</li> </ul>		
<p>&lt;旅費交通費&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3～R5実績を基に、医業収益の約0.2%で積算。</li> </ul>		
<p>&lt;消耗品費&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3～R5実績を基に、新病院では業務効率化を見込み40,000千円の定額で積算。</li> </ul>		

医 業 費 用	< 消耗備品費 > ・ R3～R5実績を基に、8,000千円の定額で積算。	
	< 光熱水費・燃料費 > ・ 推計使用量を踏まえ341,820千円の定額で積算。	
	< 印刷製本費 > ・ R3～R5実績を基に、5,400千円の定額で積算。	
	< 保険料 > ・ R3～R5実績を基に、10,000千円の定額で積算。	
	< 賃借料 > ・ R3～R5実績を基に、136,000千円の定額で積算。	
	< 通信運搬費 > ・ R3～R5実績を基に、8,500千円の定額で積算。	
	< 委託料 > ・ ES事業分は、ES事業者の試算をもとに年487,000千円の定額で設定。 ・ ES事業以外は、R3～R5の実績や他病院の事例を踏まえ医業収益の約9.4%で積算。	
	< その他 >・・・手数料、修繕料、諸会費など ・ 修繕費は、新病院開院直後のR10～R14は施設修繕が少ないと見込み10,000千円、R15～R19は30,000千円の定額で設定。 ・ 修繕費以外は、R3～R5の実績を踏まえ81,650千円の定額で設定。	
	<b>減価償却費</b>	実際の現金支出を伴わない帳簿上の費用で、建物の整備や医療機械等の購入に要した費用を、その資産の使用可能期間（法定耐用年数）にわたって分割して計上する費用
	【積算方法】・・・減価償却費の見通し【別表3】 ・ 過年度に整備・購入した資産は、既存の減価償却計画により設定。 ・ 新病院分の建物や医療機械等は、資産ごとの耐用年数に応じて費用として積算。	
<b>資産減耗費</b>	実際の現金支出を伴わない帳簿上の費用で、固定資産が廃棄や破損などにより使用不能となった場合に、残存価値を費用化した額のこと	
【積算方法】 ・ R6予算を基に、3,500千円の定額で設定。 ・ R11は、現病院の解体に伴う残存価値の減として67,754千円を加算。		
<b>研究研修費</b>	職員の資質向上に向けた参考図書やセミナー参加などに係る費用	
【積算方法】 ・ R3～R5実績を基に、医業収益の約0.3%で積算。		
医 業 外 費 用	<b>企業債利息</b>	建物の整備や医療機械など購入のために発行した企業債（借入）の利息
	【積算方法】・・・企業債償還（利息分）の見通し【別表4】 ・ 過年度に借り入れた企業債に係る利息は、既存の償還計画により設定。 ・ 新病院分は、全体の整備計画の財源として見込んだ企業債の償還年数や利率設定により積算。	
	<b>長期前払消費税償却</b>	消費税の仕入額控除を当期に計上せずに、1年を超える期間にわたって費用化する額
	【積算方法】 ・ 資産を取得する年度ごとに支払う消費税額に応じて積算。	
<b>消費税及び地方消費税等</b>	病院事業において課税対象となる支払に係る消費税及び地方消費税や雑損失の額	
【積算方法】 ・ 材料費、経費や建設改良費など課税対象となる支払額に応じて積算。		

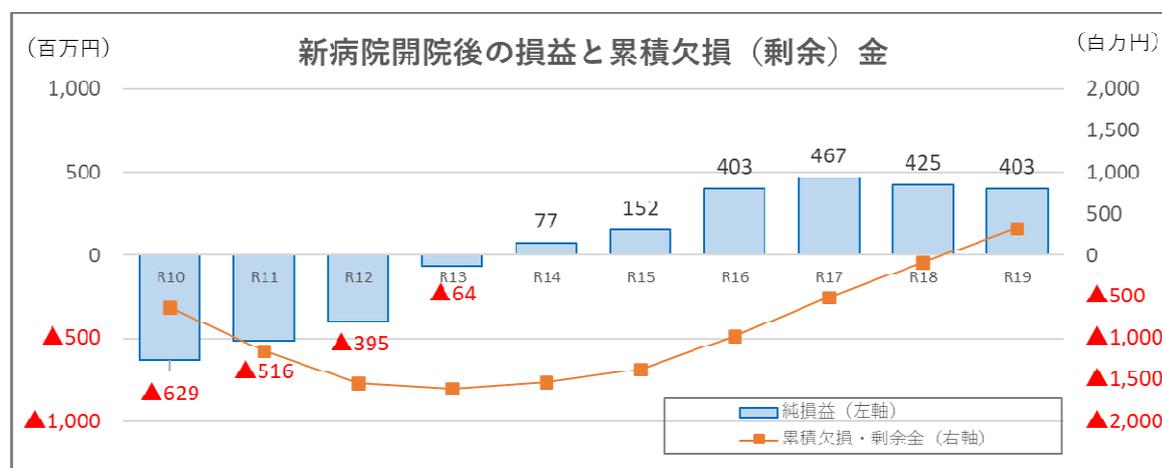
<b>高等看護学院費用</b>	<b>高等看護学院の運営に係る給与費や経費などの費用</b>
<p>【積算方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給与費はR6予算を踏まえ、93,000千円の定額で設定。</li> <li>・経費はR3～R5の実績を踏まえ30,000千円の定額で設定。</li> <li>・減価償却費は過年度に整備・購入した資産の減価償却計画により設定。</li> </ul>	
<b>健康センター費用</b>	<b>健康センターの運営に係る給与費や経費などの費用</b>
<p>【積算方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給与費は労災病院からの移行によりR6予算から約3,000千円の増加を見込、70,000千円の定額で設定。</li> <li>・健診用材料は労災病院からの移行によりR6予算から1割程度増加を見込み、30,000千円の定額で設定。</li> <li>・R10の経費は労災病院からの移行によりR6予算から3割程度増加を見込み、60,000千円の定額で設定。 R11以降の経費は前年度の▲1%で積算。</li> <li>・減価償却費は過年度に整備・購入した資産の減価償却計画により設定。</li> </ul>	
<b>特別損失</b>	<b>固定資産の売却損や修学資金の返還免除、新病院への移転費用など、通常の事業活動とは直接関係なく、臨時に発生する損失</b>
<p>【積算方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定資産売却損は1,000千円の定額で設定。</li> <li>・修学資金の返済免除はR10とR11は4,000千円、R11以降はR5から修学資金を増額した影響で増額を見込み、16,000千円の定額で設定。</li> <li>・R10には新病院への移転費用として200,000千円を見込む。</li> </ul>	

### 3. 経営指標

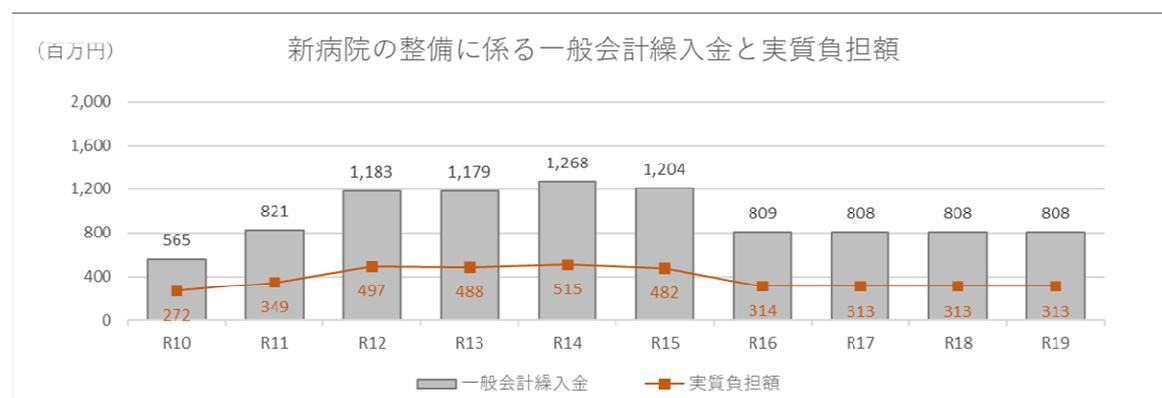
医業収支	診療や検査などの医業活動によって得られる収益と、給与や材料費など医業活動に必要となる費用の収支。本業である医業による収支を表す。
【積算方法】 ・ 医業収益－医業費用	
経常収支	医業収支に、一般会計繰入金や補助金、高等看護学院及び健康センター収支を加味した事業活動による収支
【積算方法】 ・ 経常収益－経常費用 = (医業収益＋医業外収益＋高等看護学院収益＋健康センター収益)－(医業費用＋医業外費用＋高等看護学院費用＋健康センター費用)	
純損益	病院事業収益と病院事業費用の収支。事業全体の収支を表す。
【積算方法】 ・ 病院事業収益－病院事業費用	

前述した収益や費用の積算方法による新病院開院後の損益と累積欠損（剰余）金の見通しは下図のとおりです。

病院建設においては、医療機器や情報システム（法定耐用年数4年～6年）の投資に伴う減価償却費の影響が大きいことから、開院後5年程度は厳しい収支となることが一般的であり、新病院の収支シミュレーションにおいても同様に、開院4年目（令和13年度）までは損益は赤字となりますが、開院5年目（令和14年度）以降は黒字化する見込みです。



新病院の整備に係る一般会計からの繰入金及び交付税措置を除いた実質負担額は下図のとおりです。



#### 4. 新病院開院以降（R10～R19）の病院事業収支

（単位：百万円）

区分	開院 1年目	開院 2年目	開院 3年目	開院 4年目	開院 5年目	開院 6年目	開院 7年目	開院 8年目	開院 9年目	開院 10年目
	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18	2037 R19
<b>病院事業収益</b>	<b>16,429</b>	<b>16,445</b>	<b>16,181</b>	<b>16,160</b>	<b>15,977</b>	<b>15,825</b>	<b>15,657</b>	<b>15,576</b>	<b>15,332</b>	<b>15,159</b>
(1) 医業収益	14,669	13,952	13,681	13,671	13,503	13,411	13,279	13,212	12,984	12,825
入院収益	8,904	9,599	9,481	9,474	9,427	9,376	9,316	9,276	9,178	9,083
外来収益	5,535	4,143	3,994	3,993	3,873	3,835	3,764	3,738	3,612	3,551
その他医業収益	231	210	206	205	203	201	199	197	194	191
(2) 医業外収益	1,331	2,068	2,080	2,072	2,063	2,006	1,976	1,966	1,955	1,944
他会計負担金・補助金	1,170	1,199	1,192	1,184	1,176	1,164	1,152	1,141	1,130	1,120
国道補助金	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
長期前受金戻入	69	777	796	796	796	750	732	732	732	732
その他医業外収益	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
(3) 高等看護学院収益	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133
(4) 健康センター収益	296	293	287	284	278	275	269	266	260	257
<b>病院事業費用</b>	<b>17,058</b>	<b>16,961</b>	<b>16,576</b>	<b>16,224</b>	<b>15,900</b>	<b>15,673</b>	<b>15,254</b>	<b>15,109</b>	<b>14,907</b>	<b>14,756</b>
(1) 医業費用	15,207	15,211	14,829	14,528	14,231	14,059	13,670	13,549	13,376	13,252
給与費	7,459	7,401	7,258	7,253	7,163	7,182	7,111	7,075	6,953	6,868
給料・手当	5,003	4,962	4,865	4,862	4,802	4,814	4,767	4,743	4,661	4,604
手当	102	104	102	101	100	100	99	99	97	96
報酬	387	385	377	377	372	373	369	368	361	357
法定福利費	1,072	1,064	1,043	1,042	1,029	1,032	1,022	1,017	999	987
退職給付費	425	422	414	413	408	409	405	403	396	391
賞与引当金繰入額	470	466	457	457	451	453	448	446	438	433
材料費	4,074	2,908	2,852	2,850	2,815	2,796	2,768	2,754	2,707	2,674
薬品費	2,619	1,523	1,494	1,493	1,474	1,464	1,450	1,443	1,418	1,400
診療材料費等	1,455	1,385	1,358	1,357	1,340	1,331	1,318	1,311	1,289	1,273
経費	2,688	2,742	2,716	2,715	2,699	2,710	2,697	2,691	2,669	2,654
厚生福利費	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
報償費	260	260	260	260	260	260	260	260	260	260
旅費交通費	28	26	26	26	25	25	25	25	24	24
消耗品費	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
消耗備品費	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
光熱水費・燃料費	342	342	342	342	342	342	342	342	342	342
印刷製本費	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
保険料	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
賃借料	136	136	136	136	136	136	136	136	136	136
通信運搬費	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
委託料	1,748	1,803	1,777	1,776	1,760	1,752	1,739	1,733	1,711	1,697
その他	92	92	92	92	92	112	112	112	112	112
減価償却費	939	2,046	1,959	1,666	1,510	1,329	1,051	986	1,005	1,015
資産減耗費	4	71	4	4	4	4	4	4	4	4
研究研修費	44	42	41	41	40	40	40	39	39	38
(2) 医業外費用	1,350	1,453	1,438	1,388	1,362	1,306	1,277	1,254	1,226	1,199
企業債利息	645	697	689	673	656	632	607	586	564	542
長期前払消費税償却	87	254	250	212	203	172	172	172	172	172
消費税及び地方消費税等	618	502	499	503	503	502	499	497	490	486
(3) 高等看護学院費用	133	133	133	133	133	133	133	133	133	133
(4) 健康センター費用	163	160	159	158	158	157	156	156	155	155
(5) 特別損失	205	5	17	17	17	17	17	17	17	17
医業収支	▲538	▲1,259	▲1,148	▲857	▲728	▲648	▲391	▲337	▲392	▲427
経常収支	▲424	▲511	▲378	▲47	94	169	420	484	442	420
純損益	▲629	▲516	▲395	▲64	77	152	403	467	425	403

※百万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある

【別表 1】

## 入院延患者数の見通し

(人)

	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18	2037 R19
一般病棟	108,814	109,225	108,315	107,518	106,949	106,267	105,470	104,901	103,650	102,398
精神病棟	16,644	16,494	16,361	16,245	16,145	16,045	15,945	15,845	15,662	15,479
合計	125,458	125,719	124,676	123,763	123,094	122,312	121,415	120,746	119,312	117,877

【別表 2】

## 外来延患者数の見通し

(人)

	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18	2037 R19
一般	221,647	221,089	215,759	213,085	206,706	204,654	200,888	199,530	192,777	189,510
歯科口腔外科	5,179	5,170	5,054	4,978	4,844	4,787	4,690	4,674	4,501	4,429
精神科	18,392	18,351	17,909	17,690	17,159	16,986	16,670	16,556	15,996	15,730
合計	245,218	244,610	238,722	235,753	228,709	226,427	222,248	220,760	213,274	209,669

【別表 3】

## 減価償却費の見通し

(百万円)

	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18	2037 R19
既存分	445	374	346	131	43	32	29	29	29	29
新病院分	建物	681	681	681	681	681	681	681	681	681
	外構	175	175	175	175	175	175	175	175	175
	機器	494	816	757	678	611	440	166	101	120
合計	939	2,046	1,959	1,666	1,510	1,329	1,051	986	1,005	1,015

※百万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある

※機器には医療情報システムを含む

【別表 4】

## 企業債償還（利息分）の見通し

(百万円)

	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18	2037 R19
既存分	23	17	11	6	4	1				
新病院分	建物	599	640	646	645	640	627	607	586	564
	機器	22	40	33	22	12	4			
合計	645	697	689	673	656	632	607	586	564	542

※百万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある

※機器には医療情報システムを含む